

平成26年度第1回

函館市生活交通協議会資料

- 資料－1 地域間幹線系統確保維持計画および生活交通路線確保維持計画について
- 資料－2 地域間幹線系統確保維持計画（平成27年度～29年度）（案）
生活交通路線確保維持計画（平成26年度～29年度）（案）
（参考）系統図
- 資料－3 平成26年度事業内容について
（別紙－1） 交付申請（地域公共交通調査事業）
（別紙－2） 交付決定（地域公共交通調査事業）
（別紙－3） 検討スケジュール

地域間幹線系統確保維持計画および生活交通路線確保維持計画について

1 バス路線に関する補助制度について

国においては、存続が危機に瀕している生活交通のネットワークについて、地域特性や実情に応じた最適な交通手段を確保・維持するため、地域の多様な関係者による議論を経た地域の交通に関する計画等に基づき実施される取組みを、一体的かつ継続的に支援するため、新たな補助制度として地域公共交通確保維持改善事業（交通サバイバル戦略）が創設（平成23年4月施行）された。

そのほか、北海道や市町村の補助制度により、国の補助事業の対象外となるバス生活路線について一定の補助を行うなど、国・北海道・市町村の適切な役割分担により、バス路線の維持・確保が図られている。

補助対象となる路線は、系統キロや輸送量、運行回数などによって、

- 国と道が維持する路線（地域間幹線系統）、
- 道と市町村が維持する路線（広域生活交通路線）、
- 市町村のみで維持する路線（市町村単独補助路線）

の3種類に区分される。

（補助対象期間は前年度の10月1日から当該年度の9月30日まで）

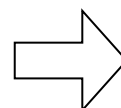
2 計画策定に係る市生活交通協議会における協議

生活交通路線の維持に係る国や道の補助を受けるには、北海道の地域協議会で路線維持に関する3カ年計画を策定し、国の承認を得ることとされている。

北海道の地域協議会が今年度策定する計画は、地域間幹線系統確保維持計画と生活交通路線確保維持計画の2つで、これらに登載される市内関係路線については、市の補助対象路線にもなることから、本市協議会においても協議するものである。

路線区分	策定計画
地域間幹線系統 (国と道の補助)	地域間幹線系統確保維持計画書 平成27年度 (H26.10～H27.9 運行分) 平成28年度 (H27.10～H28.9 運行分) 平成29年度 (H28.10～H29.9 運行分)
広域生活交通路線 (道と市町村の補助)	生活交通路線確保維持計画 平成26年度 (H25.10～H26.9 運行分)
函館市生活交通路線 (市の補助)	平成27年度 (H26.10～H27.9 運行分) 平成28年度 (H27.10～H28.9 運行分)

補助対象路線となる市内関係路線について、市協議会でも協議・検討し、その結果を計画に反映



都道府県協議会で
計画策定

■ バス生活路線維持費補助制度の概要

区 分	地域間幹線系統 (国と道の補助)	広域生活交通路線 (道と市町村の補助)	函館市生活交通路線 (市の補助)
系 統 キ ロ	・複数市町村(※1)に またがるもの ・広域行政圏の中心都市 にアクセス	10 km以上 (循環系統は 20km 以上)	—
運 行 回 数 (※2)	3 回以上/日	・複数市町村および過疎地域 2 回以上/日 ・単一市町村 3 回以上/日	—
輸 送 量	15~150 人/日	・複数市町村および過疎地域 10~150 人/日 ・単一市町村 15~150 人/日	—
補 助 対 象 経 費	経常費用－経常収益 平均乗車密度が 5 人未満 の路線は輸送量を 5 人で 除した数値を運行回数と みなした場合の運行回数 分に相当する額	経常費用－経常収益 平均乗車密度が 5 人未満の 路線は輸送量を 5 人で除し た数値を運行回数とみな した場合の運行回数分に 相当する額	経常費用－経常収益
補 助 対 象 期 間	補助金の交付を受けようとする会計年度の 9 月 30 日を末日とする 1 年間		
補 助 限 度 額	経常費用の 45% (45%を越えた額は 市町村が負担)	経常費用の 45%	経常費用の 45%
負 担 割 合	国 1/2 道 1/2	・複数市町村および過疎地域 道 1/2 市町村 1/2 <市町村は距離按分>	全額市町村 <市町村は距離按分>

※1 複数市町村要件は平成 13 年 3 月 31 日における市町村の状態に応じて決定するが、平成 13 年 4 月 1 日以降に市町村合併が行われた後に同一市町村内の路線を新たに補助対象とすることはできない。

※2 運行回数は地域協議会が認めた場合は平日 1 日あたりとする。

《函館市生活交通路線（市単独補助路線）補助対象路線の概要》

補助対象とする路線（19年度以降新規補助対象路線は市内完結路線）

- 平均乗車密度が5人以上の不採算路線
- 平均乗車密度が5人未満の不採算路線で、事業者が函館市生活交通協議会における意見を尊重して、起終点や経路、運行回数などについて見直しを行う改善計画を作成し、改善計画に基づく見直しを実施した路線（ただし、旧4町村関係路線については、当分の間、継続して補助対象路線とする。）

参 考

地域間幹線系統と広域生活交通路線の補助制度では、補助対象となる路線において、他の路線と競合する区間が50%を超え、かつ、その区間の1日の合計輸送量が150人を超える場合は、競合区間の割合に応じて当該補助対象路線の補助金がカットされることとなっており、このことから、函館市・北斗市・七飯町においては、この補助金のカット分の一部について事業者に補助をしている。

なお、国においては、地域間幹線系統確保維持計画に位置付けられた路線の維持に係る地方の取り組みに対して、特別地方交付税措置を講じることとしている。

3 地域間幹線系統確保維持計画(案) および生活交通路線確保維持計画(案)について

地域間幹線系統確保維持計画および生活交通路線確保維持計画に登載される函館市関係分の路線について、渡島地域生活交通確保対策協議会案(資料-2)が示されたところである。

市としては、案で示された路線は市民生活に必要であると認められることから、地域間幹線系統確保維持計画および生活交通路線確保維持計画に位置づけ、国・北海道とともに路線維持補助制度に則って補助を行い、その運行を確保していきたいと考えている。

■ 「1日当たり運行回数」を「平日1日当たりの運行回数」とする路線〈市関係分〉

地域間幹線系統

1日当たりの運行回数3回以上→平日1日当たりの運行回数3回以上

- ・函館鹿部線② (バスセンター～七飯～鹿部出張所)
- ・川汲鹿部線① (バスセンター～川汲～樞法華支所前)
- ・川汲鹿部線② (バスセンター～川汲～鹿部出張所)
- ・上磯線 (バスセンター～七重浜～茂辺地)
- ・函館木古内線② (バスセンター～函病・五稜郭～小谷石)
- ・函館松前線(松前号)(松前出張所～知内出張所～バスセンター)

〔 利用客数が減少する年末年始においては、運休や減便による特別ダイヤで運行し、効率的な運行を図っている。 〕

広域生活交通路線

1日当たりの運行回数2回以上→平日1日当たりの運行回数2回以上(複数市町村にまたがる路線)

- ・函館鹿部線(バスセンター～七飯～峠下小学校)

〔 主に通学利用目的の学生便となっていることから、土日祝日は運休し、効率的な運行を図っている。また、利用客数が減少する年末年始においては、減便による特別ダイヤで運行し、効率的な運行を図っている。 〕

- ・七飯線(バスセンター～七飯～ななえ新病院)

〔 主に通院、通学利用目的となっていることから、土日祝日は間引き運行し、効率的な運行を図っている。また、利用客数が減少する年末年始においては、減便による特別ダイヤで運行し、効率的な運行を図っている。 〕

《参 考》

■ 系統の分類〈市関係分〉

(上段：平成26年度，下段：平成25年度)

	複数市町村系統	市内完結系統	合 計
地域間幹線系統	16	注) 4	20
	16	注) 4	20
広域生活交通路線	2	7	9
	2	7	9
函館市生活交通路線	3	7	10
	3	7	10
合 計	21	18	39
	21	18	39

注) 当該4路線は、函館市と合併した4地域にまたがる路線であり、補助制度上は複数市町村系統に分類される。

■ 平成25年度補助金の額〈市関係分〉

(単位：百万円)

	国	北海道	函館市
平成25年度補助金 (39系統)	91	95	38

地域間幹線系統確保維持計画(平成27年度～平成29年度)(案) <函館市関係分>

資料-2

【地域間幹線系統 20系統(平成26年度は20系統)】

番号	系統名	起点	経由地	終点	キロ程 (km)	平均乗 車密度 人/口	運行 回数 回	輸送量 (人) ロ×ハ=ニ	競合区間 のキロ程 (km) ホ	計画実車 走行キロ程	経常費用 見込額 (円) △	キロ当たり 経常収益	経常収益 見込額 (円) ト	差額 (円) △ト=子	補助対象経 費上限 (9/20) (円)	競合区間の カット額 (円)	競合カット後 の合計額 (円)	みなし運行 回数査定額 (円)	補助対象 経費 (千円)	
1	大野線①	バスセター	大野②	峠下	23.0	5.0	3.9	19.5	14.5	66,700.0	18,313,152	210.77	14,038,339	4,254,793	4,254,793	2,682,369	1,572,424	0	1,572	
2	大野線②	バスセター	122 五稜郭	大野駅前	22.5	5.3	5.2	27.5	16.3	85,590.0	23,499,590	210.36	18,004,713	5,494,877	5,494,877	3,980,733	1,514,144	0	1,514	
3	大野線③	バスセター	東前	大野駅前	20.7	5.1	4.3	21.9	14.5	64,998.0	17,845,850	221.73	14,412,007	3,433,843	3,433,843	2,405,348	1,028,495	0	1,028	
4	大野線④	バスセター	亀田支所前	大野駅前	21.9	5.6	3.4	19.0	18.2	55,691.7	15,290,713	228.64	12,733,351	2,557,362	2,557,362	2,125,296	432,066	0	432	
5	七飯線	バスセター	103 藤城	峠下	18.7	5.0	3.4	17.0	15.5	47,254.9	12,974,305	218.49	10,324,724	2,649,581	2,649,581	2,196,176	453,405	0	453	
6	函館鹿部線①	バスセター	103 七飯	峠下	21.7	4.9	4.3	21.0	15.5	68,224.8	18,731,801	209.21	14,273,311	4,458,490	4,458,490	3,184,635	1,273,855	88,874	1,184	
7	函館鹿部線②	バスセター	七飯	鹿部出張所	47.5	5.0	3.0	15.0	103 455.0	103,455.0	28,404,604	172.28	17,823,228	10,581,376	10,581,376	0	10,581,376	0	10,581	
8	函館長万部線	バスセター	森八雲	長万部タミナル	111.8	6.7	3.9	28.1	325,561.6	325,561.6	89,386,192	143.76	46,802,736	42,583,456	40,223,786	0	40,223,786	0	40,223	
9	七飯大野循環線	バスセター	七飯大野循環線	バスセター	43.0	5.3	7.6	40.2	27.1	119,411.0	32,785,484	165.27	19,735,056	13,050,428	13,050,428	8,224,804	4,825,624	0	4,825	
10	下海岸線①	バスセター	谷地町	釜谷	22.5	5.0	3.9	19.5	65,610.0	65,610.0	18,013,881	221.16	14,510,308	3,503,573	3,503,573	0	3,503,573	0	3,503	
11	下海岸線②	バスセター	五稜郭	恵山崎	52.4	5.2	7.4	38.4	284,132.4	284,132.4	78,011,391	206.70	58,730,168	19,281,223	19,281,223	0	19,281,223	0	19,281	
12	旭岡団地線	昭和タミナル	112 東港	旭岡中学校	21.6	7.3	8.6	62.7	14.3	136,879.2	37,581,553	232.75	31,858,634	5,722,919	5,722,919	3,788,784	1,934,135	0	1,934	
13	川汲鹿部線①	バスセター	川汲	樺法華支所前	53.7	5.0	3.0	15.0	116,958.6	116,958.6	32,112,153	200.87	23,493,474	8,618,679	8,618,679	0	8,618,679	0	8,618	
14	川汲鹿部線②	バスセター	川汲	鹿部出張所	51.6	5.3	3.0	15.9	125,866.8	125,866.8	34,557,988	213.95	26,929,202	7,628,786	7,628,786	0	7,628,786	0	7,628	
15	下海岸線③	バスセター	谷地町	下原木	33.6	5.0	3.1	15.5	77,145.6	77,145.6	21,181,095	209.97	16,198,262	4,982,833	4,982,833	0	4,982,833	0	4,982	
16	鹿部海岸線	鹿部出張所	川汲	古部	34.9	5.0	3.1	15.5	80,549.2	80,549.2	22,115,588	233.03	18,770,381	3,345,207	3,345,207	0	3,345,207	0	3,345	
17	函館江差線	バスセター	東港厚沢部	江差タミナル	80.0	5.4	4.9	28.4	291,200.0	291,200.0	79,951,872	176.44	51,379,328	28,572,544	28,572,544	0	28,572,544	0	28,572	
18	上磯線	バスセター	七重浜	茂辺地	20.6	5.0	3.0	15.0	44,990.4	44,990.4	12,352,564	212.69	9,569,009	2,783,555	2,783,555	2,040,372	743,183	0	743	
19	函館木古内線②	バスセター	函館田橋郭	小谷石	65.7	6.4	3.0	19.2	142,906.4	142,906.4	39,236,381	155.27	22,189,077	17,047,304	17,047,304	0	17,047,304	0	17,047	
20	函館松前線(松前号)	松前出張所	知内田張所	バスセター	104.6	7.4	3.0	22.2	228,446.4	228,446.4	62,722,243	170.62	38,977,525	23,744,718	23,744,718	0	23,744,718	0	23,744	
合 計											2,531,572.0	695,068,400	—	480,772,853	214,295,547	211,935,877	30,628,517	181,307,360	88,874	181,209

※7 函館鹿部線②、13川汲鹿部線①、14川汲鹿部線②、18上磯線、19 函館木古内線②、及び20 函館松前線(松前号)の平均運行回数は平日1日当たりの運行回数

生活交通路線確保維持計画(平成26年度～平成28年度)(案) <函館市関係分>

【広域生活交通路線 9系統(平成25年度は広域生活交通路線9系統)】

番号	路線名	起点	経田地	終点	キロ程 (km)	平均乗 車密度	運行 回数	輸送量 (人)	競合区間 のキロ程 (km)	実車走行 キロ程	経常費用 (千円)	経常収益 (千円)	差額 (千円)	補助対象 経費上限 (9/20) (千円)	競合区間の カット額 (千円)	競合カット後 の合計額 (千円)	みなし運行 回数査定額 (千円)	合計額 (千円)
1	鉄山峨眉野線①	バスセンター	旭岡団地	峨眉野 学校前	25.5	5.0	3.4	17.0		64,744.5	17,857	12,674	5,183	5,183	0	5,183	0	5,183
2	鉄山峨眉野線②	バスセンター	旭岡団地 ⑩	鉄山	20.5	5.0	3.6	18.0	13.4	54,571.0	15,051	10,635	4,416	4,416	2,886	1,530	0	1,530
3	旭岡団地線	昭和 ターミナル	10-6 石川鍛冶	旭岡 中学校	20.7	5.4	5.3	28.6	14.3	81,102.6	22,368	15,303	7,065	7,065	4,880	2,185	0	2,185
4	函館鹿部線	バスセンター	103 七飯	峠下 小学校	21.0	5.0	2.0	10.0	15.5	20,580.0	5,676	4,359	1,317	1,317	972	345	0	345
5	七飯線	バスセンター	103 七飯	ななえ 新病院	16.8	5.0	2.0	10.0	15.5	20,361.6	5,616	4,521	1,095	1,095	1,010	85	0	85
6	田家石川線	昭和 ターミナル	4 田家町	函館駅前	10.7	3.4	6.7	22.7		52,751.0	14,549	10,940	3,609	3,609	0	3,609	1,455	2,154
7	中の橋線①	日吉 営業所	3 中の橋	サリル	10.3	4.2	4.1	17.2	7.3	31,188.4	8,602	6,280	2,322	2,322	1,645	677	182	495
8	中の橋線②	東山見晴 台団地	3 中の橋	市役所前	13.2	5.2	2.6	13.5	7.3	25,528.8	7,041	5,685	1,356	1,356	749	607	0	607
9	昭和船見線	昭和 営業所	1 市立函館 病院	船見町	13.5	5.0	9.8	49.0	12.0	97,321.5	26,841	23,882	2,959	2,959	2,630	329	0	329
合 計										448,149.4	123,601	94,279	29,322	29,322	14,772	14,550	1,637	12,913

※ 4「函館鹿部線」, 5「七飯線」の平均運行回数は平日1日当たりの運行回数

生活交通路線確保維持計画(平成26年度～平成28年度)(案) <函館市関係分>

【函館市生活交通路線 10系統(平成25年度は10系統)】

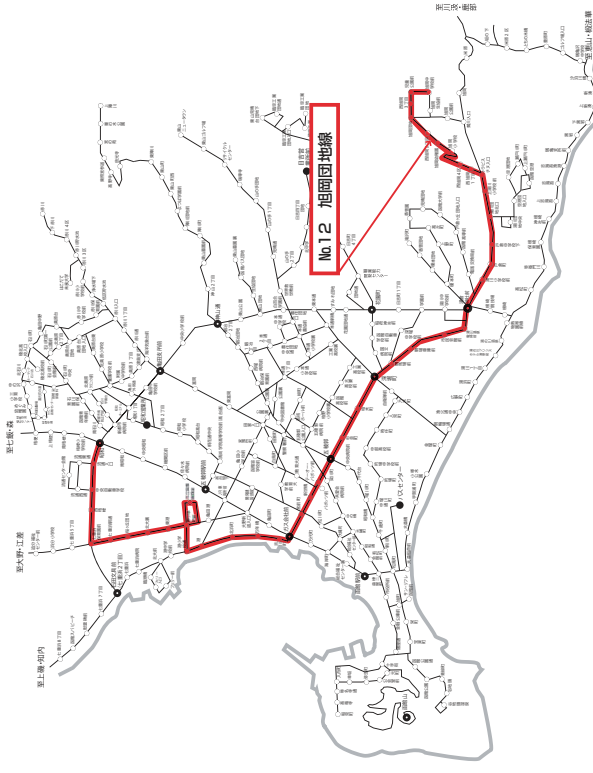
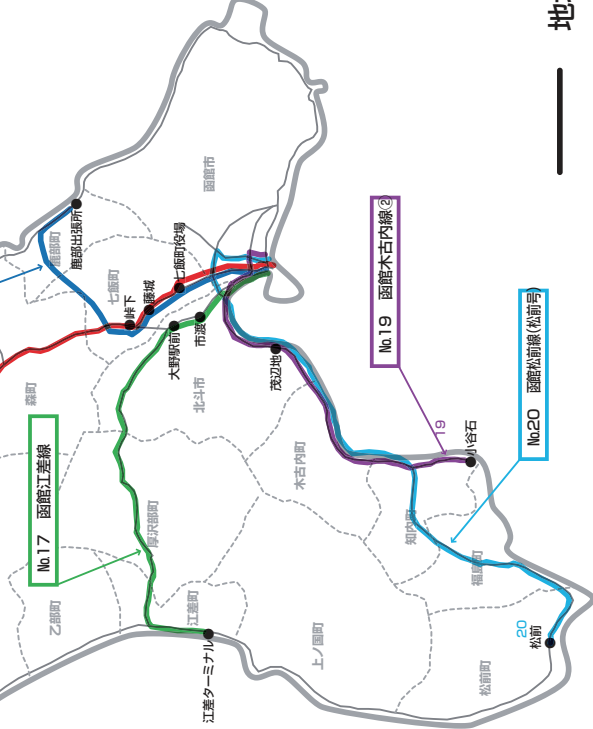
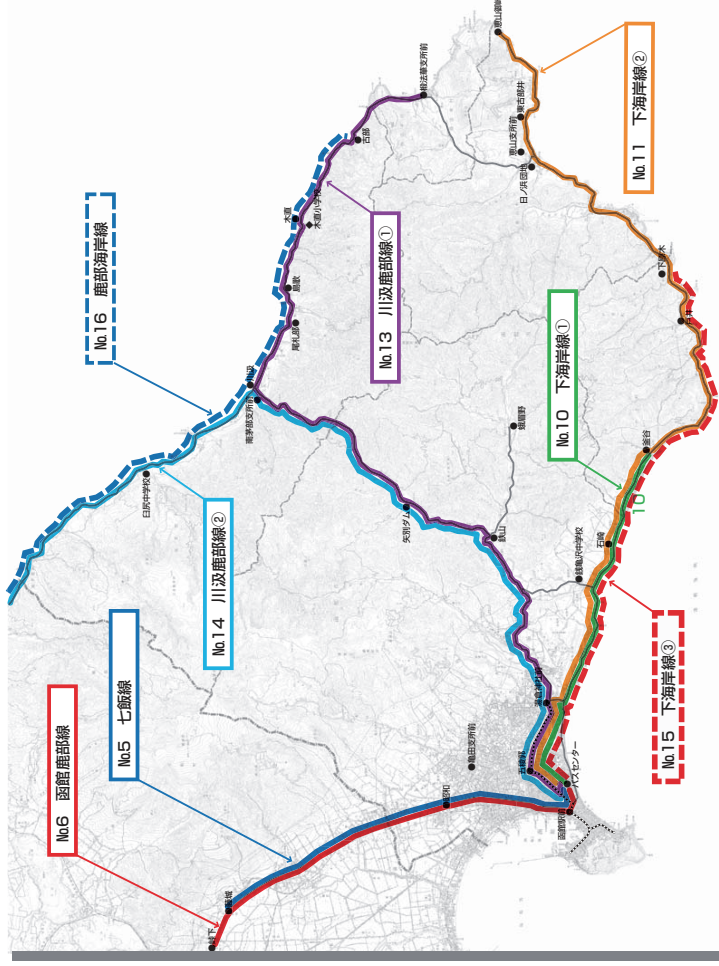
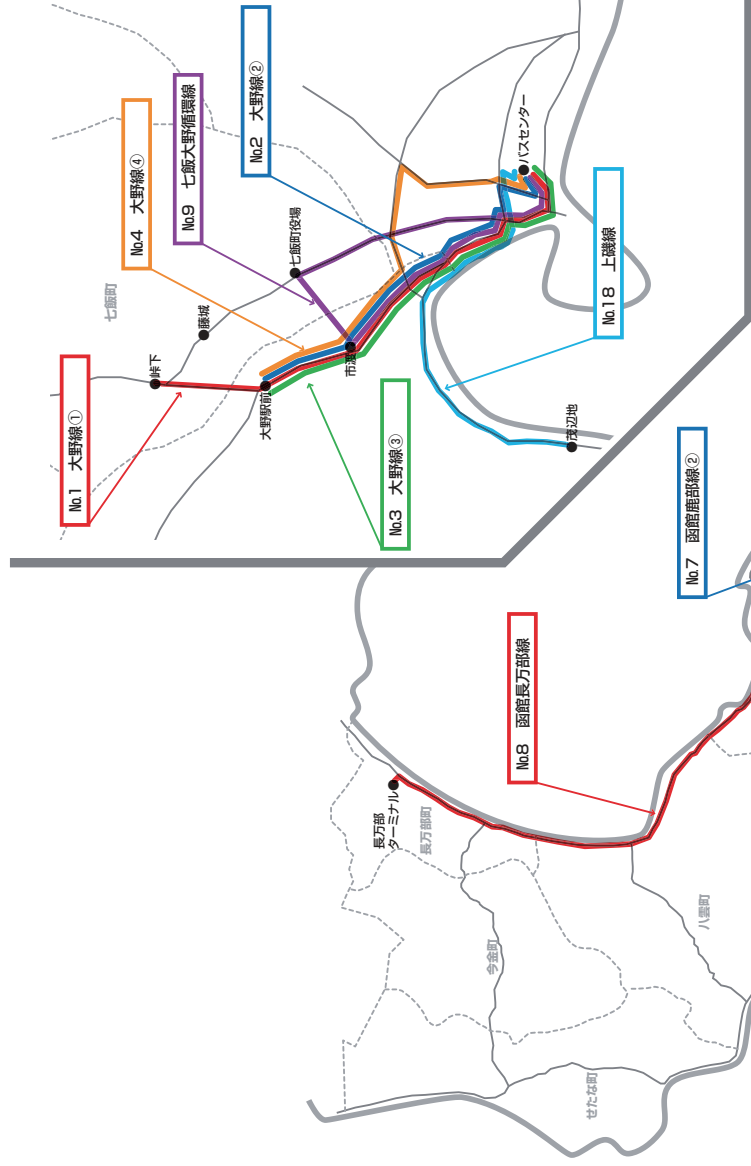
番号	路線名	起点	経田地	終点	キロ程 (km)	平均乗 車密度	運行回数	輸送量 (人)	経常欠損 (千円)	補助見込額 (千円)
1	花園銭中線	昭和 ターミナル	花園町 湯田旭団	銭亀沢 中学校	19.7	5.0	1.1	5.5	1,283	1,283
2	旭岡団地線①	昭和 ターミナル	10-6 稜北鍛冶	旭岡 中学校	22.7	5.5	0.4	2.2	591	591
3	函館長万部線①	バスセンター	七飯	森出張所	46.1	6.6	0.4	2.6	1,389	1,389
4	函館長万部線②	バスセンター	七飯	森駅前	46.5	5.8	0.4	2.3	1,782	1,782
5	下海岸線②	日ノ浜 団地	海向山	椴法華 支所前	7.5	2.0	4.4	8.8	3,570	3,021
6	鹿部海岸線①	鹿部 出張所	臼尻 中学校	南孝部 支所前	19.2	5.0	0.7	3.5	207	207
7	鹿部海岸線②	南孝部 支所前	川汲	古部	15.7	2.5	0.9	2.2	1,566	1,412
8	花園下海岸線②	昭和 ターミナル	97 流通花園町	銭亀沢 中学校	18.2	5.2	0.9	4.6	583	583
9	下海岸線③	日ノ浜 団地		恵山御崎	6.3	0.8	0.9	0.7	970	569
10	旭岡団地線②	昭和 ターミナル	9 花園町	旭岡 中学校	14.4	5.0	0.8	4.0	726	726
合 計									12,667	11,563

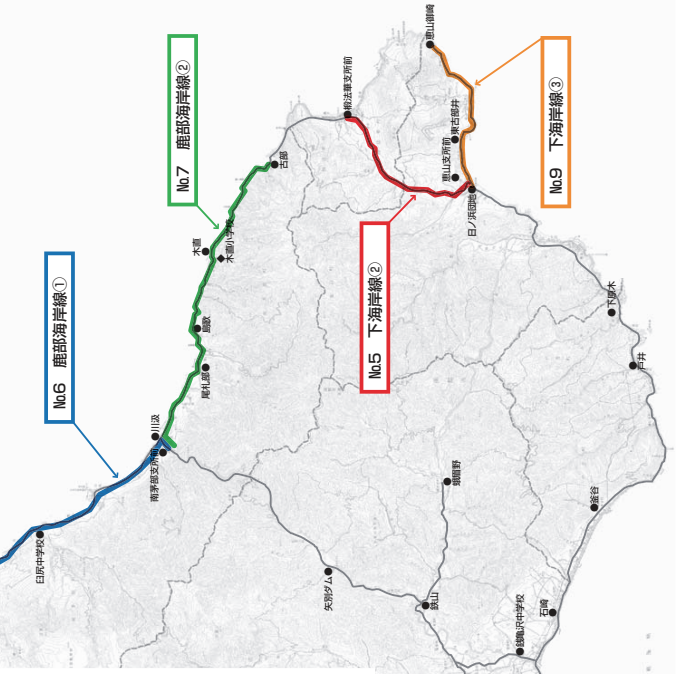
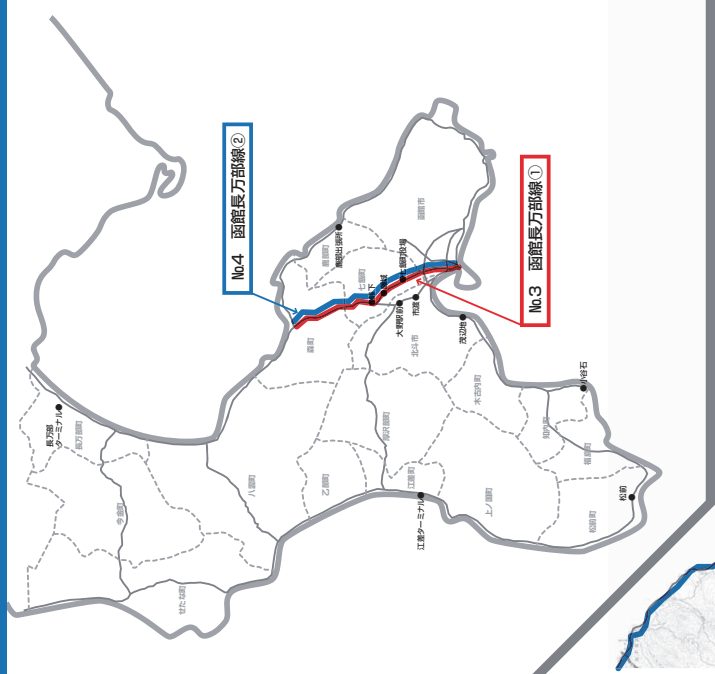
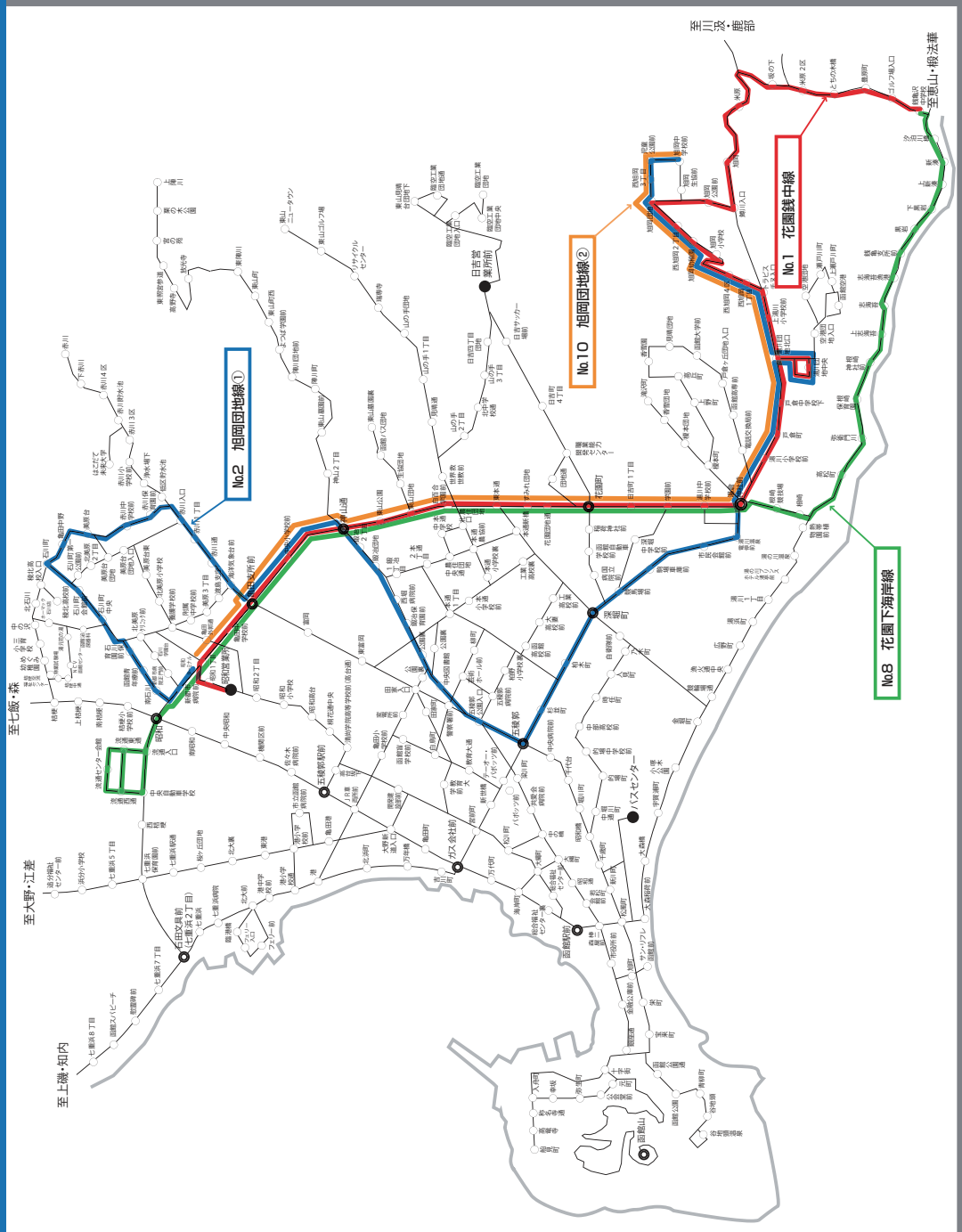
平成26年度(平成25年10月～平成26年9月) 地域間幹線系統・広域生活交通路線・函館市生活交通路線(函館市に係る路線)の収支改善につながる取り組みについて

事業名	実施主体	番号	項目	該当路線等	内容
陸上交通に係る地域 公共交通確保維持事業 (地域間幹線系統) (広域生活交通路線) (函館市生活交通路線)	沿線の自治体 函館バス株式会社	1	運行方法の改善 ・運行回数 ・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯 バス停)等	【地域間幹線系統】 大野線①、大野線②、 大野線③、大野線④ 函館江差線	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年5月に、利用実態にあわせて函館江差線を減便し、効率化を図った。 ・地域の住民から、北斗市内(旧大野町)のバス停『浜分小学校』とバス停『温分福祉センター』の間 に、新たにバス停を設置してほしいとの要望があり、平成26年5月に実施した。
		2	運行方法の改善 ・運行回数 ・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯 バス停)等	【地域間幹線系統】 七飯大野循環線 函館長万部線	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線の大野農業高校から、朝の七飯大野循環線を早くしてほしいとの要望をうけ、平成25年11 月に実施した。それに伴い、競合する函館長万部線の時間を変更し、総体的に利用実態にあった 運行時間への見直しを図った。
		3	運行方法の改善 ・運行回数 ・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯 バス停)等	【地域間幹線系統】 函館松前線(松前号)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年3月に、JRの時刻改正に伴い、競合する木古内松前線を含めて、木古内駅前での接 続 便の時刻の見直しを図った。
		4	運行方法の改善 ・運行回数 ・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯 バス停)等	【広域生活交通路線】 中の橋線(3系統) 中の橋線②(3系統)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年11月及び平成26年5月に、中の橋線(3系統)及び、競合する31系統を含めて、利用 実態にあわせて、総体的に減便し、効率化を図った。 ・平成26年5月に、工業高校・大妻高校・市立函館高校への朝の学生便である、8系統急行を廃 止 し代替系統である【広域生活交通路線】の中の橋線②(3系統)へ利用者をシフトさせることで、 増
		5	運行方法の改善 ・運行回数 ・ダイヤ(乗継ぎ、時間帯 バス停)等	【広域生活交通路線】 昭和船見線(1系統)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年5月に、利用実態にあわせて競合する別の1系統も含めて、総体的に減便し、効率化 を図った。
		6	利用促進 ・住民理解、普及、PR 助成制度等	函館バスの全路線	<ul style="list-style-type: none"> ・函館バスが、休日のバス利用促進策として、平成26年1月から土日定期券所有者を対象に、土 日祝に全線バス乗り放題サービスを開始し、企業や学校等に周知を図った。
		7	利用促進 ・住民理解、普及、PR 助成制度等	函館市近郊路線 (函館市・北斗市・七飯町 鹿部町・森町)	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道新幹線新駅沿線協議会(構成員:函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・JR北海道・函館 市企業局・津軽海峡フェリー・函館バス)発案の観光客むけの商品『はこだて旅するバスポート』 (JR・函館市電・函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町管内の路線バスが2日間乗り放題の共通 フリー乗車券:大人3,080円 こども1,540円 ※津軽海峡フェリーはバスポートを提示する と
		8	利用促進 ・住民理解、普及、PR 助成制度等	函館市近郊路線 (函館市・北斗市・七飯町)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障害者等の移動の利便性や安全性向上のため、国の補助制度を利用し、函館市、北斗 市、七飯町、函館バスと協力して、ノンステップバスを導入し続けている。

平成26年度(平成25年10月～平成26年9月) 地域間幹線系統・広域生活交通路線・函館市生活交通路線(函館市に係る路線)の収支改善につながる取り組みについて

事業名	実施主体	番号	項目	該当路線等	内容
陸上交通に係る地域 公共交通維持事業 (地域間幹線系統) (広域生活交通路線) (函館市生活交通路線)	沿線の自治体 函館バス株式会社	9	利用促進 ・住民理解、普及、PR 助成制度等	函館市近郊路線 (函館市、北斗市、七飯町)	・幼少時から、函館バスに慣れ親しんでもらうため、夏休み、冬休み期間限定の小中学生1500円、中学生3,000円の低価格で函館市・北斗市・七飯町管内の乗り放題定期券『バス冒険キング』を販売した。
		10	利用促進 ・住民理解、普及、PR 助成制度等	函館市に係る路線	・北海道運輸局主催で実施している、エコ通勤から始める「地域の足」確保キャンペーン期間中(平成25年9月～10月までの2カ月間)に、函館運輸支局、函館市企業局、函館バスが連携して、街頭啓発及び地元企業の企業を訪問し、公共交通の利用促進を図った。
		11	利用促進 ・住民理解、普及、PR 助成制度等	函館市に係る路線	・函館市にて、市民ノーマイカーデー(キャンペン)期間:平成25年10月28日～平成25年11月1日を実施し、函館市企業局では、期間中、先着50名に市電グッズの配布、函館バスでは、先着50名に企業に購入していただいた乗車券の配布をし、利用促進を図った。
		12	利用促進 ・住民理解、普及、PR 助成制度等	函館市に係る路線	・函館バスが、観光客向けの『函館バスの乗り方』を掲載したマップを作成し、ホテルや施設に配布し、観光客のバス路線の利用促進を図った。また、バス車内掲載用に、函館市内の主要バス路線図及び、函館バスの乗り方を掲載したポスターを、平成26年7月に作成する予定である。
		13	利用促進 ・住民理解、普及、PR 助成制度等	函館市に係る路線	・函館バスが、函館市の交通料金助成制度(対象者:高齢者・障害者等)の町会への周知活動をしたが、路線に関するご意見やご要望を伺った。 ・函館バスが、バスへ乗り込み、利用者へのヒアリングや、時刻表配布を実施した。 ・函館バスが、商業施設・公共施設・病院等に自社で作成しているポスター時刻表や、最寄りのバス停の時刻表を配布した。また、企業にバス市電共通乗車回数券を購入してもらい、時刻表と回数券をセットにして、住宅への個別配布も実施した。
		14	利用促進 ・住民理解、普及、PR 助成制度等	【地域間幹線系統】 函館江差線	・沿線の江差町の商工会にて、1セット10,000円分を、8,000円で購入できるプレミアム商品券が発売(差額の2,000円は、国の補助メニューを使い、江差町が補助)期間:平成25年11月21日～平成26年1月31日)され、当社のバス・市電共通乗車カードを購入するお客様の利用促進につながった。 ・北海道運輸局発案により、近畿日本ツーリスト北海道の『さまざまな離島めぐり 奥尻島』の旅行商品に、「函館江差線」を組み入れることにより、利用促進を図った。
		15	利用促進 ・住民理解、普及、PR 助成制度等	【地域間幹線系統】 函館長万部線 【函館市生活交通路線】 函館長万部線① 函館長万部線②	・沿線の森町にて、実施している、高齢者・障害者に対してのタクシー料金助成サービスを、平成26年7月から、バス料金にも拡充する予定。
		16	削減・節約・効率化等	函館バスの全路線	・軽油価格が高騰していることから、函館バスで、『グリーン経営認証』の取得をした。 ※『グリーン経営認証』とは、環境改善努力を評価する制度で、国土交通省が、運送事業者に取得を推奨している。上記に取り組むことにより、環境改善だけでなく、燃費向上による経費削減のメリットもある。





○平成26年度事業内容について

1 地域公共交通調査事業に係る経過

○平成25年度

地域公共交通確保維持改善事業費補助金 6,000,000円

(委託業者 株式会社 ドーコン)
(委託金額 5,984,000円)

○平成26年度

地域公共交通確保維持改善事業費補助金

H26.4.1 交付申請 4,320,000円

H26.5.1 交付決定 3,000,000円

2 事業の実施内容

函館市では、市民生活に欠かすことのできないバスや電車などの公共交通を、将来にわたって持続可能なものとするため、平成25年度から当協議会において、今後の公共交通のあり方についての検討を行い、本年2月に検討報告書を取りまとめ、この報告書を基に、市で「地域公共交通総合連携計画」を策定した。

平成26年度は、当該連携計画に基づくバス路線網の再編等を実現化するため、乗継施設の整備や関連施策を組み合わせた再編計画（生活交通ネットワーク計画）を策定する。

実施項目	実施内容
公共交通再編案の検討	○公共交通路線再編案の作成 ○交通結節点整備案の作成
公共交通再編案の検証	○区間別公共交通路線再編案の作成 ○公共交通路線再編のシミュレーション
実現化方策の検討	○実現化に向けた検討 ○公共交通関連施策の検討 ○スケジュールの作成
協議会開催	・計画策定に向けた検討・協議するための協議会を開催

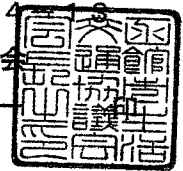
3 今後の主なスケジュール

平成25年度	地域公共交通調査事業（主体：協議会） 公共交通のあり方検討報告書作成（主体：協議会） 地域公共交通総合連携計画の策定（主体：市）
平成26年度	生活交通ネットワーク計画の策定（主体：協議会）
平成27年度以降	具体的施策の実施（主体：交通事業者、市または協議会）

平成26年4月1日

国土交通大臣 殿

住 所 北海道函館市東雲町4
氏名又は名称 函館市生活交通協議会
会長 木村 健



平成26年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金
(地域公共交通調査事業) 交付申請書

平成26年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金(地域公共交通調査事業)金4,320,000円を交付されるよう、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)第5条の規定に基づき、別紙関係書類を添えて申請します。

平成26年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金
(地域公共交通調査事業) 交付申請事業

補助対象事業者名 函館市生活交通協議会

(単位:円)

補助対象事業の 名称及び内容	補助対象事業の着手 及び完了予定日	補助対象経費	補助金額
地域公共交通調査事業 ・再編路線の導入に向けた現状把握と関連施策の整理 ・路線再編等による影響把握のための需要予測の実施 ・公共交通ネットワーク構築のための導入計画案の策定 ・協議会開催	着手予定日 交付決定日以降 完了予定日 平成27年3月31日	4,654,000	4,320,000

(添付書類)

- (1) 地域公共交通調査事業の実施に関する計画
- (2) 補助対象経費に係る見積書
- (3) その他補助金の交付に関して参考となる書類

1. 当該地域の公共交通の概況・問題点

(1) 地域の概況

当市は北海道南西部に位置し、面積は約 678 km²で、三方を海に囲まれ、函館山を要とし扇状に広がる平野部に都市機能が集積しており、南北北海道の行政・経済・文化の中核都市である。また、北海道と本州を結ぶ交通の結節点であり、平成 27 年度には北海道新幹線の開業も予定されている。

人口推移は、国勢調査によると 1980 年の 345,165 人をピークに減少傾向にあり、2010 年では、279,127 人となっている。前回調査（2005 年）と比較すると 15,137 人減少しており、全国第 2 位の減少数となっている。また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2030 年には、総人口 212,191 人、うち高齢者人口 81,324 人（38.3%）と予測されており、総人口の減少と相まって、少子高齢化が今後ますます進行していくことが想定されている。

(2) 公共交通の概況

本市の公共交通は、市電、路線バス、鉄道、タクシーで構成されている。市電は、主な都市施設を結ぶ主要幹線道路を 10.9km にわたり運行し、路線バスは、函館駅前から放射線状に伸びる幹線道路を中心に、市内外へ計 114 系統が運行している。鉄道は、函館本線と津軽海峡線があり、札幌方面と本州方面へ接続し、市内に 3 駅を有している。いずれも、通勤・通学・通院などに多く利用されているが、利用者数は減少の一途をたどっている。一方、自動車登録台数は年々増加し、函館交通圏の交通分担率も自動車が全体の約 7 割を占めている（H13 パーソントリップ調査）。

(3) 公共交通の問題点

市電は沿線人口が 1990 年の 94,732 人から 2010 年には 68,177 人と大幅に減少しており、今後も利用者減少が懸念されている。路線バスは、放射線状に伸びる幹線道路と横断的な路線が入り組み複雑な路線網が形成され、また、特有の地形のため駅前に向かって路線が集中し、路線の競合など非効率な運行がされているほか、1 日当たりの利用者も 1990 年の 30,203 人/日から 2010 年には 10,068 人/日と、この 20 年で約 1/3 まで減少している。特に、東部（旧 4 町村）地区を運行する路線は慢性的な赤字路線であり、これまで減便等による効率化を図っているが、補助額は年々増加し続け（H24 は 6,435 千円、H23 比 623 千円増）、根本的な改善には至っていない。

平成 24 年度に市が実施した市民アンケートでは、路線バスや市電を利用しやすくするための改善点として、「わかりやすい路線にする」が最も多く、市民にとってバス路線はわかりづらく、利用しづらいものになっていることから、利用転換・促進を図るには、バス路線の再編を進めることが喫緊の課題となっている。

2. 目指す交通計画と策定調査の必要性

函館市では、市民生活に欠かすことのできないバスや電車などの公共交通を、将来にわたって持続可能なものとするため、平成 25 年度から当協議会において、今後の公共交通のあり方についての検討を行うこととし、平成 25 年度には本調査事業を活用し、交通事業者の OD データの分析などの現況調査や、新たな交通システムの導入効果を検証する需要変動予測調査を実施し、本年 2 月に検討報告書を取りまとめた。さらに市では、この検討結果を踏まえ、現在、「地域公共交通総合連携計画」の策定を進めている。

平成 26 年度には、当該連携計画に基づくバス路線網の再編を実現化するため、乗継施設の整備や関連施策を組み合わせた再編計画を策定する必要があることから、昨年度実施した需要変動予測データを活用し、新たに設定する路線の経路や運行頻度、料金設定から路線利用者の予測や乗継施設の施設規模や整備手法などの立案、施策導入効果の試算・検証など、必要な調査を実施する必要がある。さらに、これらを基に生活交通ネットワーク計画を策定することとし、地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統）や地域公共交通バリア解消促進等事業（バリアフリー化設備等整備事業）の活用も見据えた検討も行うものとする。

5. 予算計画				
実施項目	総事業費 (見込み)	補助対象経費 (見込み)	国費 (見込み)	地域の負担 (見込み)
1. 再編路線の導入に向けた 現状把握と関連施策の整理	864 千円	864 千円	864 千円	0 千円
2. 路線再編等による影響 把握のための需要予測 の実施	1,566 千円	1,566 千円	1,566 千円	0 千円
3. 公共交通ネットワーク 構築のための導入計画 案の策定	1,890 千円	1,890 千円	1,890 千円	0 千円
4. 協議会開催等経費	334 千円	334 千円	0 千円	334 千円
合計	4,654 千円	4,654 千円	4,320 千円	334 千円

函館市生活交通協議会

会長 木村 健一 殿

北海道運輸局長 小山内 智

平成26年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金
(地域公共交通調査事業) 交付決定通知書

平成26年4月1日付けで申請のあった「平成26年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金(地域公共交通調査事業)」については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号。以下「適正化法」という。)第6条第1項の規定により、下記のとおり交付することを決定したので、同法第8条の規定により通知する。

記

1. 補助金対象事業 地域公共交通調査事業

2. 補助対象経費及び補助金額額は、次のとおりとする。

補助対象経費	金	4,654,000円	}	(内訳別紙)
補助金の額	金	3,000,000円		

3. 補助対象事業については、当該補助対象事業に係る地域公共交通調査事業の実施に関する事項を記載した計画に即して実施するものとする。

4. 補助対象事業者は、適正化法、同法施行令(昭和30年政令第255号)及び地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱に定めるところに従わなければならない。

平成26年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金
 (地域公共交通調査事業) 交付決定事業

補助対象事業者名 函館市生活交通協議会

(単位:円)

補助対象事業の 名称及び内容	補助対象事業の着手 及び完了予定日	補助対象経費	補助金額
地域公共交通調査事業 ・再編路線の導入に向けた現 状把握と関連施策の整理 ・路線再編等による影響把握 のための需要予測の実施 ・公共交通ネットワーク構築 のための導入計画案の策定 ・協議会開催	着手予定日: 交付決定日以降 完了予定日: 平成27年3月31日	4,654,000	3,000,000

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
補助申請等	●申請(0401)	●交付決定(0501)											●実績報告 補助金交付●
業務委託		●業者選定 ●委託契約											
生活交通ネットワーク計画策定													
生活交通協議会		●第1回協議会(0523) □					●第2回協議会(8月下旬) □	●第3回協議会(11月上旬) □			●第4回協議会(2月上旬) □		
ワーキンググループ会議		●第1回WG会議(0519) □					●第2回WG会議(8月中旬) □	●第3回WG会議(10月下旬) □			●第4回WG会議(1月下旬) □		

公共交通再編案の検討

○公共交通路線再編案の作成
昨年度策定した「地域公共交通総合連携計画」を基に、公共交通路線再編について、補足の調査やデータの整理のほか、交通事業者の運行実態や意向を調査し、実現可能な路線再編案を作成する。

○交通結節点整備案の作成
路線再編案を基に、各交通結節点の設置場所や必要とされる機能、規模等を検討し、その具体的なイメージを作成する。

公共交通再編案の検証

○区間別公共交通路線再編案の作成
公共交通路線再編案を基に、主な区間のより詳細な再編案を作成する。

○公共交通路線再編のシミュレーション
路線再編による運行台キロ、運行本数、平均運行距離の変化や、路線の運行頻度、料金の変化による、各路線区間利用者、拠点での乗継利用者数などをシミュレーションにより算出し、再編案の検証を行う。

実現化に向けた検討

公共交通再編案の検証の結果や、他都市における導入事例等を参考に、整備手法や事業化に向けた課題等の整理を行い、実現化方策を取りまとめる。

○公共交通関連施策の検討
公共交通活性化のための関連施策の実現可能性を検証し、導入時期を検討する。

○スケジュールの作成
公共交通ネットワーク構築のための事業スケジュールを策定する。

実現化方策の検討